

NO 9
S 63年 2月 27日
—発行—
〒869-12
熊本県菊池郡
大津町森54-2
社会福祉法人
三気の会
三気の里
TEL096
293-8100

人の採用

理事長 田中 稔

今年は暖冬のためでしょうか、梅の開花もいつもより早いように思われます。この時期は新しい人生の旅立ちの頃でもあります。入学試験。合格発表。就職試験。新しい職場。多くの人が夢をもって新たな生活の場へ踏み出されようとしています。

私共も昨年春「三気の里」を開所するにあたり職員の採用試験を行いました。紹介も含め多くの方々から申込みがありました。ありがたいことです。筆記と面接により決めさせていただいたのですがどちらかというと面接に重点をおきました。面接によりその人の人柄、考え方、誠実さ、やる気、思いやり、温かさ等を判断させてい

ただきました。

「三気の里」の開所に至る経緯のなかで行政も含めて多くの方々のお力添えがありました。その中には職員採用などで便宜をはかってもらえることを期待されておられた方もあったようです。それでも私共は本人自身にお会いして、それによって採用を決めさせていたできました。

ある会合で行政におられる方から「三気の里を注目して見せていただいております」という言葉を聞きました。「どうしてですか」とたずねましたら「天下りや縁故で人を採っておられないこと、この事だけでも大変なことです」というお答えでした。

法令によってスタッフ数が決まり、措置費という枠があって仕事をしているわけですから、私達の

ところだけが特別という事はありません。だからこそ、人の採用に際し、その人自身の人柄、考え方、やる気、誠実さ、温かさといった小さなことを大切にしたいと考えます。個人主義、能率主義が幅を利かす中で、いささか時代遅れの価値感のようですが。

こうして勤務することになった職員一人一人が現在の「三気の里」の園生を中心とした「真面目な」「温かな」雰囲気を作ってくれたと思います。「三気の里」では作業などの場面で、どの人が園生や園長やら事務長やら指導員やら分らないような仕事ぶりです。小さなことを大切にする姿勢を何処かで、誰かが注目しておられる。このことを忘れないで、これからもやっていきたいと思っております。



療育シリーズ

NO. 9

子別れ

園長・土井尚典

キタキツネは子別れの時期になると子狐を追いかけてまわし、噛みつき、2度と親の近くに來ないようにすると言います。親と子がそれぞれに生きていくために必要な事だからなのでしょう。

人間の場合は動物と同じようにすることできません。しかし、いつかは親から独立して行かなくてはなりません親もいつまでも元気でいるとは限りません。

障害児(者)をもつ親と子はどうでしょうか。あるお父さんが、「先生、親が無理矢理連れて帰らなければ帰らんという位魅力的な施設作りをして下さい。」とおっしゃいました。「そんな関係に園生となつたらなあ」と思いました。が、「ハイ」とは言えませんでした。何度も何度もおっしゃるお父さんの想いはもっと違ふところに

あると思います。恐らく親なき後の将来の事だろうと思います。

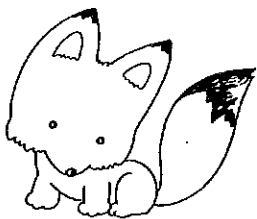
子が親から離れられるころはどうやって育つでしょうか。施設が家より魅力的な場であることによつてできるでしょうか。どんなに魅力的であっても親を想うころはちいさくならないと思います。むしろ親を想うころを育てていきたいと考えています。

入園式の日、親から離される事をそれとなく知った。園生は玄関に入るのに何時間もかかりました。保護者はうしろ髪をひかれながら、涙をこらえて帰って行きました。又、ある保護者は車から降りる事のできない子のために車を置いて帰りました。園生からすれば「親の裏切り」なのです。その非常さが園生を三気の里で生きていかせるころだと思えます。「親はいつまでもあなたたちを守れないよ、他の人からも可愛がられ、他の人も好きになつて欲しい、元気でな、ガンバレヨ」等沢山の想いがこもっていると思えます。

ちょっと調子が悪いから、かわいそうだから、と帰園を延ばそうと思う親心を子供は機敏に察知し、家に居たいサインを送つて來ます。そのサインは親のころを締めつけるのに充分なものです。この時ころを「オニ」にできるかが子別れ、親別れの大事な瞬間だと思います。親は自分を守ってくれて当たり前、いつも親に救いを求めることから、親の有り難さに変わつていつて欲しいと思えます。

子は親の厳しさに合つて、はじめ親の有り難さがわかると言つたら言いすぎでしょうか。

保護者の來園を満面の笑みで迎える園生たちは親の有り難さを身にしみて感じて來ていると思えます。



もちつき大会

白い湯気をあげて、蒸し上ったもち米。“あついっ”という声をあげながら、お母さんがうす八入れる。まっぴりなりましたとばかりにきねを持つたお父さんがもち米をこね始める。ギョッギョッ。体中の力をこめてこねていくと、お米のつぶが見えなくなっていく。それべったんべったん。お父さん、お母さんが息を合わせてべったんべったん。あつという間に白くてなめらかなもちのできあがり。お父さんはすごいなあ。へえーおもちってこうやってつくるのかあ。はじめはおもちを食べることに夢中だったみんなが、だんだん、だんだんうすの周りに集まってきた。みんな言葉にはできないけど“僕もやりたい、僕もやりたい”と目が訴えてる。素早くそれをキャッチしたお姉さんの“やる？”の声にきねに飛びつく園生の多いこと。しんちゃん、こうちゃん、のおちゃん、けいくん、たけちゃん、みつ

ちゃん、ひでくん、ひろしくん、きよしくんなどなど。いいぞー、なかなか上手だぞ。周囲の“がんばれ”という声援に照れくさそうな顔をしながらもべったんべったん。りっぱなおもちができました。あんもち、白もち、よもぎもち。遊びに来てくれた白川保育園の皆さん、婦人会や老人会の皆さん、お腹いっぱい食べたべてくれましたか。ちよっぴり照れ屋の僕たちだけどもまた遊びに来てくださいね。

平川

パッタタン

パッタタン

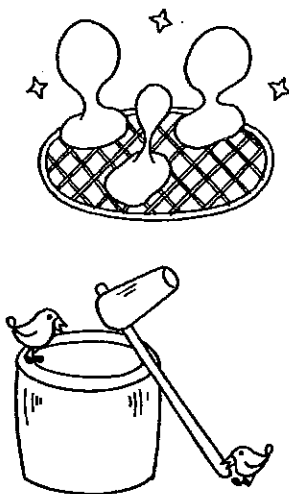
卒業論文も無事書き上げ、一段落ついた冬のある日、「よーし、モチばいっばい食べて帰ろう」と気合を入れて、三気の里にやって来ました。そう、その日2月11日は、園の“もちつき大会”、朝から（たぶん、前の日からでしょう）園は、何かソワソワとした雰囲気を感じられました。今日は、園生のお父さんやお母さんも参加する

とのこと。だから、みんなニコニコしてたのかあ、どうりでネ。

初めてのもちつき大会（私にとっても初めてでした）、それぞれがおもちをついたり、まるめたり、そして、つきたてのおもちを食べたり。一番多かったのは、（私も含めて）やはり、食べる方が専門だったようです。おもちの種類は、白もち、あんこもち、それに、よもぎもちもあり、どれも大変おいしかったです。どうもごちそうさまでした！

地域の人々や、白川保育園の先生方も交えた、ある冬の一日を楽しく過ごしました。

（ボランティア M I A O）

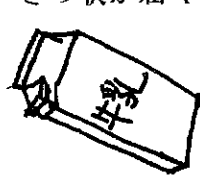


3班・ぼくらプロだもん！

去年の12月頃から、3班では冬ごもりに備えて紙すきをはじめました。この作業のはじめは、牛乳パックの紙ちぎりからです。まずはニューフェイスのゆみちゃんが、ハサミでパックを四角に切ります。それを晃子さんが2枚に開いて水につけた物を啓三君が、“これこそ僕の専門”とビニールをじょうずにはがしてくれます。このパルプが再生されて何とも味わいのある紙になる訳です。（何しろ牛乳パックでできているのですから）はがされた紙を、のりちゃん、けんちゃん、けいちゃん、しんちゃん、ようじ君が手先も器用にちぎるのですが、これがまたひと苦勞。さあ、もっとがんばって、などとてもとても…。座っているだけであくびのビールスが飛んできそうです。しかし、その習慣でか、紙すきの見学に出かけた先で、しんちゃんは牛乳パックを見るなり、紙ちぎりを始めているではありませんか。全くア然としてしまいました。

ちぎった紙は、さらに細かくするためミキサーにかけ、すいていくのです。。。おそらく、おそらく来年は、皆様の手元に三気の里から気品高き新年のごあいさつ状が届くであらうでしょう。乞うご期待！！

（小道）



4班・ヤッホー立田山ハイク

本日は快晴！皆んなのリュックには、厨房さんがハナミズ…すいません。汗水たらして作った弁当と、あつい眼差しで見詰め選んだ200円分のおやつと、温かいお茶の入った水筒を入れて、充分重みを感じながら立田山登山を楽しみました。かけ足で登って行く子や、マイペースを崩さずもくもくと登る子、皆んな無理をせず、思い思いに登り山頂を目指す。目的地に着くと、皆んなの思いはリュックに集中！「お弁当の中身は何だろうな？」「ぼくのおやつは、ちゃんと入ってるかな？」と、皆んなの思いが嵐となってリュックにふりかかる。お弁当の包みを開けて、いきなりウイナーをつかむ創くん。お弁当は早々と食べてしまい、すでにおやつを開けている典浩くん。お弁当を開けて、うれしそうに微笑み、「いただきます」はまだかと催促する誉征くん。お菓子に目がなく、この時ばかりと「ください」の連発をする方紀くん。担当にお菓子をくださいと言われ、しぶしぶ渡していた和久くん。大好きなチョコレートを思う存分食べている文彦くん。太陽もさんさんとあびて、お弁当を食べている勝己くん。お菓子を早く食べたくて、開けてくださいと必死にたのんでいた俊二くん。昔懐かしいボンタン飴を、見せびらかして食べていた忠夫くん。皆んなで、ワイワイ言いながら立田山山頂で食べたお弁当は格別でした。

（坂本）



1 班・我ら土に生きる

1 班の作業の現状報告をしたいと思います。只今、1 班では今年1月から新しく畑作業をとりいれたのです。何を植えるのかって…それは、職員一人一人の希望で、ハーブにイチゴにヘチマ、この3種類にとりくむことになりました。広い畑も確保できたし、さあみんなで耕そう！いざ畑に入ってみると石ころがたくさん！まずは石ころ拾いから開始。この石ころがあさり貝だったら拾いがいもあるのになあとぼやいているのは、わたくし通称ショルダー星人。みんなは何を考えながらやっているのかな？その作業風景はというと…熱心にクワで耕す希久男くん、石ころを拾っては一輪車へほうり投げる潔くん、クワ使いが特にうまいぶちゃん、一輪車押しが気にいっている武ちゃん、移植ごてをもち、少しでも畑を広めようとあぜまでも掘り返しているみっちゃんねじりハチマキに長靴姿がよく似合う現場監督の重ちゃん。洗たく作業では、見られなかった面が見られ、おもいっきり外の作業を楽しんでいます。みんな新しい作業がんばっています。みなさん収穫期を楽しみにして下さい。（武藤）

2 班・夏みかん狩り！あーすっぱい

2月18日 待ちに待ったレクリエーション。今回は、八代郡竜北町まで、夏みかん狩りに「のん気号」に乗って行きました。

天気も良く、風もあまりなく、暖かい日差しを受けて、皆、喜んで夏みかんを取っていました。

とても喜んでいたひでちゃん、ニコニコと笑顔が一杯でした。タミさん、フタミさんも袋が破れる位たくさん取って満足そうでした。それでもタミさんは「まだ取って行こうかね」とはりきって、たくさん持って帰って来ました。はじめくんはコンテナ一杯の夏みかんを園長と一緒に山から運び出していました。後で腰が痛いと言っていたなんて、内緒です。はしむらくんも同じ様にコンテナ一杯のみかんを抱え、さすがに重たかったのでしょうか「先生、手伝って！」と頑張りました。

運び出した夏みかんを、半分に切り砂糖をかけて食べましたが、とてもおいしかったのでしょうか、かずちゃんもこうちゃんも何度も何度もお代わりしていました。かなもりくんもてっちゃんも、笑顔がずっと絶えず、とても楽しかった様です。只、しゅうちゃんが元気がなかったのは残念でした。

皆、無事に楽しい一日を過ごす事ができました。今、会議室には夏みかんのフレッシュナかおりが一杯です。（上村）



新年会

新年を迎え、早一ヶ月がたった二月、ネオンがまぶしい繁華街でお父さん、お母さん方と職員で新年会が開かれました。日頃、お尻の重たい職員もこの日ばかりはと、勤務中の職員と園生を後に残し、さっそうと一張羅を身にまとい、冷たい視線を浴びながら出かけました。定刻より少し遅れて会場に着くとそこには、日頃、三気の里でお会いするお父さん、お母さん方とは一味違う姿がズラリ…。待つてましたとばかりに、“先生からどうぞ”と（私は“先生”と呼ばれる度に恥じらいを感じながら）食べ盛りの職員に料理やお酒をすすめて下さったお父さん、お母さん。料理に舌つづみを打ち、お酒が入って雰囲気も和みだし、“さあ、一曲歌でも…”と同時によぎる後に残して来た他の職員と園生の顔。

“ハイ、これまで”と、お父さん、お母さんそしてネオンの誘惑を振

り切って帰った新年会。お父さん、お母さん、今度はジャージにトレナーで花見でも何如ですか？

大塚

ちよと気になる

栄養の話

「福は内、鬼は外」二月三日“節分の日”みなさんのご家庭では、豆まきをされましたか。鬼の大きな豆をまいて元気なよい子になろう。昔から年の数だけ節分の豆を食べると病気をしないとされています。

今回はその節分の時にまく大豆についてお話ししたいと思います。大豆は植物性食品で俗に『畑の肉』といわれるほどの良質のたんぱく質を含む栄養食品です。そのまま煮豆などにしていただく場合は、消化が悪いのが欠点ですが、これを消化よくするため十分水を含ませてから弱火で時間をかけて煮ます。丸くて粒のそろった物を選び三倍の水に一晩つけて使います。う。ちよとばかり調理が面倒で

すが、たまには昔なつかしの“ざぜん豆”でも作ってみてはいかがですか。

興呂木

ただ今

食堂営業中

「売り切れ御免のカレーライス」

二月十一日、餅つき大会の日、三気の里食堂は大繁盛だった。グラウンドでは餅つきの準備も着々と進み、あんころ餅が出来あがっている頃、厨房の中は熱気ムンムン、カレーの臭いがムンムン、もうひとつおまけに味の方も自信ムンムンじゃなかったマンマンといったところで開店五分前を迎えた。さあて、今か今かと食事の音楽を待つ一瞬、しゃもじを持つ手に力が入った。いつもより食数が多いのは大変だが張り合いもあった。問題だったのは、最後の一皿まで白いごはんの上にカレーをのせて、皿の隅に福神漬を添えることが出

来るかどうか。ヨーシ百皿に挑戦。無事五十四皿通過、その間おかわり二・三十皿。オッーと、もしかしてごはんが足りないかも。それから慌てた私達は、内緒の話ですがごはんを炊いたのでした。

金の卵

『わあー、卵が産まれたとー。1コいくらかな』この声は、にわたりの飼い方も知らずに、16わも飼っている2班の第一号の大事な大事な卵に対する声です。今は、なづなやはこべを小さく切ったものに麦やだいで、それから貝がらを小さく砕いてやっています。以前は配合飼料をやっていた、それが1800円以上もするのに、太り盛りのにわとり（その時はひよこだった）が食べるわ食べるわ、あっという間に食べてしまつて、金食いのにわとり、略して金のにわとりになり、そして金の卵を産んだからなのです。

うん千円もかけて育てたにわたりの産んだ卵はさぞおもしろう、

というわけで2班では相談の結果、クレープをつくって食べることにしました。これから春にかけて、どんどん卵を産みましたら、どうぞみなさんも味見してください。金の卵ですヨ。きつとおいしいと思います。

高橋

内緒ですが、2個目の大事な卵が大地に帰ったそうです、ねーかよちゃん。



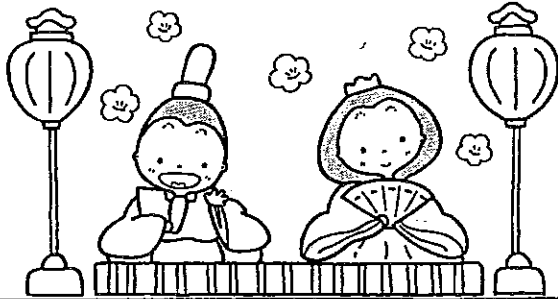
せつぷんの日

二月三日に、悪い鬼を退治して福がいっぱい三気の里にくるようになんなどで豆まきをしました。この日のために一週間前から各班で鬼の面と、豆を入れる箱を作りました。こわーい鬼やかわいい鬼と、一人一人とってもユニークな鬼が出来上がりました。

さて当日は：場所は食堂、悪い鬼をやっけるぞーとばかりに？（ほんとうは福の面をつけなくてはいけないのだけど）鬼の面をみんなまでつけて、「鬼は外ー福は内ー」と声を上げて、豆まきをしました。豆を投げる前に食べる子や、ペランダに出て行ってみんなの的になってしまふ子など、とても楽しいひとときでした。ふと気がついて食堂の中を見まわすと、あたり一面に豆が散乱していて、そうじにひと苦労。悪い鬼もこのさわざにびっくりしてみんな逃げ出したことでしょう。

3月行事予定表

3月2日(水)	体重測定
3日(木)	ひな祭り
7日(月)	3月の誕生会
10日(木)	2班・3班レクリエーション
11日(金)	冬季体育実技研修
15日(火)	防災訓練
17日(木)	1班レクリエーション
19日(土)	保護者会・帰宅訓練日 職員会議
20日(日)	職員研修会
21日(月)	帰園日・行事会議
24日(木)	4班・レクリエーション
30日(水)	大掃除
4月2日(土)	帰宅訓練日 お知らせ 帰宅訓練日が変更となります



もちつききの御礼

2月11日の餅つき大会では色々な面で協力していただきました。初めての地域交流行事とあってどうなることかと思っておりましたが、そういった職員の心配をよそに、父兄の方々、地域の人々、白川保育園の皆さん、ボランティアさん等の手ぎわよい協力により無事終了することができました。終了後、辛かつ

たのは、一緒に帰宅できなかった園生それとも帰途について父兄？

ボランティアさん

ありがとうございます

三気の里が閉所してはや10ヶ月。三気の里にボランティアとして登録されている方は現在47名。このたくさんの方のボランティアの皆さんに協力をいただいております。様々な行事やレクリエーションが無

事に実施されて来ました。3月以降も様々な行事を企画しておりますのでご協力お願いいたします。気軽に連絡下さい。 平川

——編集 後記——

今日は監査の日、園長と事務長と主任（坂井指導員、2月1日付）で主任となりましたと栄養士の興呂木と事務の多田は大慌てで頑張っている中、私は夜勤明けのボーッと顔とグシャグシャ頭で編集しております。主任は迷惑そうな顔をして、忙しい中、私のコーセイを、アーセイ、コーセイと言っております。

おかげさまで、たんぼぼだよりの原稿は、いつも満たんです。白い空白の欄が無く、うれしい悲鳴がでています。実は私、たんぼぼ原稿が全部うまる様に、「のん気」という題で、文章を書いていきます。のん気という題ですのでいつ載ってもかまわないのですが、載る機会をのがしています。私の原稿はたまる一方ですが、うれしいことです。

聖子